



羽合小学校の教育研究は！ その2

No, 26に続き研究の話です。おつきあいください。

前回、学級づくりの中で子どもたちに付けた力を4つあげました。課題を見つける力・アイデアを考え実践する力・相手の話を理解し自分の考えを加えてつなげる力・多様な考えを調整する力、こう挙げてくるとお気づきのように、これらの力は学習するためにも必要な力です。

例えば、問題を読んで問われていることをつかむ（課題を見つける）、問われていることを導き出すために方法を考え、解いていく（アイデアの実践）、考えを出し合って答えに迫る（自他の意見の理解）、よりよい答えを発見する（意見の調整と発展）といったようなことです。

このように、学級づくりの中で身に付ける力は授業に生きる力です。

そこで4つの力を活用するため授業の中に個人で考える場面、意見を出し合う場面、意見を練り合う場面を意図的に作り出すようにしています。参観日や公開授業の中で、この場面はどんな場面かなあ、子どもたちの考えの練り合いはどうかあといったような見方で授業参観していただくのもよいと思います。

このように学級づくりで身に付ける力は授業に生きる力ですから、学級づくりは学力向上の大きな力になるといえます。

また逆に、授業の答えの方が一意に定まりやすく、4つの力を発揮しやすいのは授業の方だとも言えます。だから、4つの力を授業でも育て、学級づくりに生かしていきたいと考えています。学級づくりと授業が、互いに子どもたちに働きかけ合い、ますます子どもたちの力を伸ばします。

【H i r o m i G o !】

先日、歌手の郷ひろみさんが出演しているテレビを見ました。私が子供の頃丁度「新御三家」（野口五郎・西城秀樹と共に、決して橋幸夫・舟木一夫・西郷輝彦ではありません。）と言われて人気絶頂でしたので、それから約40年間人気を保ち続けておられるのは驚きです。インタビューの質問の中に「郷ひろみが郷ひろみでは無くなる時は何時ですか？一人になる時ですか？」という質問がありました。それに対して「一人になる時こそ自分を律する時です。」「自分は一人でも神様が見ています」というようなやりとりだったと思います。

私も小学校の担任の先生に同じようなことを教わりました。それは「天知る、地知る、我知る」という言葉です。誰も見ていてもいなくても、自分の行うことは「天」も「地」も、何より自分自身が知っている。だから、人として恥ずかしくない生き方をしなければいけません。現代は匿名の時代だと言われます。であるなら私達は、より自分を律する必要があるように思います。

郷ひろみさんがいつまでも郷ひろみとして輝いている理由がわかりました。